

授業科目名： 英語学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：星 宏人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 本コースでは英語学に関する様々な分野を扱い、中学校及び高等学校における外国語科の授業で必要な英語学に関しての幅広い知識を学生が確実に身につけることができるようにする。			
授業の概要 学生に音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、英語史及び国際語としての英語の実態等の重要な英語学分野を幅広く紹介し、その本質について学生と討論する。授業では、できる限り英語を使って学生と対話し議論する。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：コースの概要説明 第2回：英語と英語学 第3回：音声学（調音音声学、音響音声学、聴覚音声学） 第4回：音韻論（音素、異音、音韻構造） 第5回：形態論（語の定義、語形成のメカニズム） 第6回：統語論（品詞、文法役割、意味役割、曖昧文と文構造） 第7回：中間試験 第8回：意味論（言語における意味とは？言語における意味をどう捉えるべきか？） 第9回：語用論（文と発話、コンテキストと意味、文解析、文産出） 第10回：統語論、意味論そして語用論を統合する動的統語論 第11回：言語の変化（英語史、比較言語学および国際語としての英語） 第12回：言語と心（言語習得、生得説、普遍文法） 第13回：言語と社会・文化（共通語、方言、レジスター）			
テキスト Lyons, John (1981) <i>Language and Linguistics: An Introduction</i> , Cambridge University Press.			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 授業参加態度（20%）、中間試験（40%）、最終試験（40%）に基づき総合的に評価します。			

授業科目名： 英文法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：星 宏人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 本コースでは中学校及び高等学校における外国語の授業で必須な英文法に関しての基礎知識を学生が確実に身につけることができるようにする。			
授業の概要 学生に先ず、英文法理解の基盤となる文法、品詞、文法役割、時制、アスペクト、基本的文構造等の基礎的文法概念を理解させる。次に、否定、否定のスコープ、情報構造等の特質について学生に自ら考察させ、その特質を討論する。授業では、できる限り英語を使って学生と対話し議論する。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：コースの概要説明 第2回：3種類の文法（心に内在する文法、記述文法、規範文法） 第3回：品詞と文法役割 第4回：英語の動詞と助動詞（疑問文と否定文に基づいた考察を通して） 第5回：時制、アスペクト、節において記述される様々なシチュエーション 第6回：節の基本文構造（主語、目的語、述語的補部など） 第7回：中間試験 第8回：名詞句の形と意味 第9回：否定と否定のスコープ 第10回：関係節の形と意味 第11回：比較級・最上級の形と意味 第12回：等位接続構文の形と意味 第13回：情報構造（受動態、外置構文、存在文など）			
テキスト Huddleston, R., G. K. Pullum, & B. Reynolds (2022) <i>A Student's Introduction to English Grammar</i> , Cambridge University Press.			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 授業参加態度（20%）、中間試験（40%）、最終試験（40%）に基づき総合的に評価します。			

授業科目名： 英語音声学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：富田 かおる 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 英語音声の構造を理解し、母語とは異なる言語に触れる事の意味が説明出来る様になる。			
授業の概要 <i>The English Language</i> から音声の話題を取り上げ、英文理解と内容に関する議論を行う。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：ガイダンス 第2回：笑わない音声学について 第3回：音声と文字 第4回：音声構造 第5回：調音器官 第6回：母音構造 第7回：短母音 第8回：二重母音 第9回：長母音 第10回：子音 第11回：連続子音 第12回：エッセイの書き方を解説 第13回：エッセイを書き提出 定期試験 笑わない音声学を題目としたエッセイを書く			
テキスト <i>The English Language</i> から抜粋したプリントを使用する			
参考書・参考資料等 Crystal, D. (2003) <i>The English Language</i> , Cambridge			
学生に対する評価 教材の英文理解や内容に関する授業中の議論を平常点として50点、提出エッセイを50点とする			

授業科目名： 英語音声学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：富田 かおる 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 英語発音の特徴を理解し、母語とは異なる言語学習に見られる問題点を説明出来る様になる。			
授業の概要 <i>The English Language</i> から音声の話題を取り上げ、発音実践に関する問題点を議論する。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：ガイダンス 第2回：笑えない音声学について 第3回：音節構造 第4回：音節境界 第5回：連続音声 第6回：強勢 第7回：韻律 第8回：リズム 第9回：音象徴 第10回：吹き出し音声 第11回：発音 第12回：エッセイの書き方を解説 第13回：エッセイを書き提出 定期試験 笑えない音声学の題目でエッセイを書く			
テキスト <i>The English Language</i> から抜粋したプリントを使用する			
参考書・参考資料等 Crystal, D. (2003) <i>The English Language</i> , Cambridge			
学生に対する評価 教材の英文理解や内容に関する授業中の議論を平常点として50点、提出エッセイを50点とする			

『アメリカ文学案内』（田島俊雄、中島斉、松本唯史、朝日出版）

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業中の質問に対する回答や読解への積極的参加度（40%）

授業科目名 英語文学講読 a	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤 良浩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 英語で書かれた文学作品の読解を通して、英語の様々な表現を学ぶ。 ・ 文学作品を鑑賞する過程で、情景・登場人物の心理描写を理解するとともに、作品の背景にある異文化の理解を深める。			
授業の概要 英語圏の代表的な短編や特色のある短編の講読を通して、英語の様々な表現を学びながら、文学作品を鑑賞する。鑑賞にあたっては、とりわけ作品中に情景や人物の心理描写として描かれる比喩的表現描写に着目し、その表現がどのような意味を持つ可能性があるのかについて考察していく。一通り読解した後は、作品についての感想、意見を発表する場を設けることにしたい。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：授業のガイダンス、作家、時代背景、取り上げた作品についての説明 第2回：Katherine Mansfield, “The Garden Party” 作品講読 1 第3回：Katherine Mansfield, “The Garden Party” 作品講読 2 第4回：“The Garden Party” 重要表現の復習、作品、テーマ等についてのディスカッション 第5回：D.H. Lawrence, “The Horse Dealer’s Daughter” 作品講読 1 第6回：D.H. Lawrence, “The Horse Dealer’s Daughter” 作品講読 2 第7回：“The Horse Dealer’s Daughter” 重要表現の復習、作品、テーマ等についてのディスカッション 第8回：Muriel Spark, “The Curtain Blown by the Breeze” 作品講読 1 第9回：Muriel Spark, “The Curtain Blown by the Breeze” 作品講読 2 第10回：“The Curtain Blown by the Breeze” 重要表現の復習、作品、テーマ等についてのディスカッション 第11回：Souvankham Thammavongsa, “How to Pronounce Knife” 作品講読 1 第12回：Souvankham Thammavongsa, “How to Pronounce Knife” 作品講読 2 第13回：“How to Pronounce Knife” 重要表現の復習、作品、テーマ等についてのディスカッション テキスト：適宜講義プリントを配布			
参考書・参考資料等 『現代イギリスの女流作家たち』（井内雄四郎、大社淑子著、評論社） 「「博労の娘」における愛と自由の相克」（加藤良浩著、新英米文学会 <i>New Perspective</i> 第181号） 『ナイフの発音の仕方』における主人公のラオス人としての思い」（加藤良浩著、東京未来大学研究紀要、Vol 17）			

学生に対する評価

授業への取り組み（予習の有無、授業内の活動）(50%)、期末レポート(50%)

授業科目名： 英語文学講読b	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤 良浩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語で書かれた文学作品の読解を通して、英語の様々な表現を学ぶ。 ・ 文学作品を鑑賞する過程で、情景・登場人物の心理描写を理解するとともに、作品の背景にある異文化の理解を深める。 			
授業の概要			
<p>アメリカ南部ルネサンスの代表的な小説家の短編作品の講読を通して、英語の様々な表現を学びながら、文学作品を鑑賞する。鑑賞にあたっては、とりわけ作品中に情景や人物の心理描写として描かれる比喩的表現描写に着目し、その表現がどのような意味を持つ可能性があるのかについて考察していく。一通り読解した後は、作品についての感想、意見を発表する場を設けることにしたい。</p>			
授業計画			
第1回：授業のガイダンス、作家、時代背景、取り上げた作品についての説明			
第2回：Katherine Anne Porter, “Theft” 作品講読 1			
第3回：Katherine Anne Porter, “Theft” 作品講読 2			
第4回：“Theft” 重要表現の復習、作品、テーマ等についてのディスカッション			
第5回：Katherine Anne Porter, “The Flowering Judas” 作品講読 1			
第6回：Katherine Anne Porter, “The Flowering Judas” 作品講読 2			
第7回：“The Flowering Judas” 重要表現の復習、作品、テーマ等についてのディスカッション			
第8回：Flannery O'Connor, “The Circle in the Fire” 作品講読 1			
第9回：Flannery O'Connor, “The Circle in the Fire” 作品講読 2			
第10回：“The Circle in the Fire” 重要表現の復習、作品、テーマ等についてのディスカッション			
第11回：Flannery O'Connor, “The Revelation” 作品講読 1			
第12回：Flannery O'Connor, “The Revelation” 作品講読 2			
第13回：“The Revelation” 重要表現の復習、作品、テーマ等についてのディスカッション			
テキスト：適宜講義プリントを配布			
参考書・参考資料等			
『現代アメリカの女流作家たち』（モーリーン・ハワード編、小林健治、岡本貫太郎訳、評論社）			
『アメリカ南部ルネサンスの小説』（加藤良浩著、松柏社）			
学生に対する評価			
授業への取り組み（予習の有無、授業内の活動）(50%)、期末レポート(50%)			

授業科目名： Advanced English Communication	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： エドモンド・フェック 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ 本授業では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの総合的なスキルに取り組むことでコミュニケーション能力を向上させ、より自然な英語でコミュニケーションを取るようになる。			
授業の概要 本授業では、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能すべてに焦点を当て、ディスカッションやその他の課題学習を通して練習する。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：Speaking & Listening activities: self-introductions and classroom English. (スピーキング&リスニング・アクティビティ 自己紹介と教室内での英語) 第2回：Reading focus (1). UK and university life. (リーディング-イギリスと大学生活) 第3回：Speaking & Listening activities: UK review (1). Discussion topic 1 introduction: read article and write Preparation worksheet. (スピーキング&リスニングアクティビティ イギリスについての振り返り 議論①の導入) 第4回：PDR (Preparation, Discussion, Reaction) discussion 1: discuss topic 1 in groups and write Reaction. (PDR 議論①についてディスカッションし、内容と感想を書いて発表) 第5回：Speaking & Listening activities: study abroad. Music (1): listening and writing. (スピーキング&リスニングアクティビティ-英語の歌を聴き歌詞の聞き取り/留学について) 第6回：Reading focus (2). UK and US English (1). (リーディング-イギリス英語とアメリカ英語の違い①) 第7回：UK and US English (2). Discussion topic 2 introduction: read article and write Preparation worksheet. (イギリス英語とアメリカ英語の違い② (英字雑誌を読み、ワークシートを書いて議論②の準備) 第8回：PDR (Preparation, Discussion, Reaction) discussion 2: discuss topic 2 in groups and write Reaction. (PDR 議論②についてディスカッションし、内容と感想を書いて発表) 第9回：Speaking & Listening activities: idioms and numbers (1). (スピーキング&リスニング・アクティビティ：熟語と数字を用いた表現に注意して聞き、話す①) 第10回：Reading focus (3). Focused reading with written output: cross-cultural literature. (リーディング&スピーキング：異文化文学)			

第1 1回 : Speaking & Listening activities: idioms and numbers (2). Discussion topic 3 introduction: read article and write Preparation worksheet. (スピーキング&リスニング・アクティビティ : 熟語と数字を用いた表現に注意して聞き、話す② 議論③の導入)

第1 2回 : PDR (Preparation, Discussion, Reaction) discussion 3: discuss topic 3 in groups and write Reaction. (PDR 議論③についてディスカッションし、内容と感想を書いて発表)

第1 3回 : Course review and evaluation. (振り返りとフィードバック)

テキスト

なし

参考書・参考資料等

American & British English Pronunciation by Sekine, M. (Nan'un-do)

学生に対する評価

ディスカッションの評価: 60% 課題: 30%. 振り返りテスト: 10%.

授業科目名： English Presentation I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： エドモンド・フェック 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語で上手にプレゼンテーションできる語学力と自信を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 本授業では、国際的な聴衆に向けたプレゼンテーションのスタイルを指導することを目的とし、プレゼンテーションのテクニックとともに、テーマに基づいた言語内容も学ぶ。学生は3つのテーマでプレゼンテーションを行い、他学生のプレゼンテーションに対してもフィードバックを行う練習もする。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：Self-introductions – planning and writing. Student interviews. Assignment: prepare self-introduction presentation.（自己紹介-計画と執筆） 第2回：Basic presentation skills. Self-introduction presentations and peer evaluations. Assignment: self-evaluation report.（基本的なプレゼンテーションスキル） 第3回：Biography – language focus. Understanding introductions and conclusions. Assignment: research an admirable person.（人物紹介-言語焦点。序論と結論を理解する。） 第4回：Openers and Closers. Making note cards. Biographical presentation models. Assignment: prepare biographical presentation.（始め方と終わり方。ノートカードを作る。経歴プレゼンテーションのモデル。） 第5回：Biography – presentations and peer evaluations. Assignment: self-evaluation report.（人物紹介-プレゼンテーション） 第6回：Places – language focus. Understanding tourism English. Assignment: research a travel destination.（場所説明-言語焦点。観光英語を理解する。） 第7回：Presentation skills – introduction previews and concluding reviews. Using visual aids. Assignment: prepare presentation on a location for a vacation.（プレゼンテーションスキル-イントロダクション・プレビューと結論のレビュー。ビジュアルエイドの使用。） 第8回：Places – presentations and peer evaluations. Assignment: self-evaluation report.（場所説明-プレゼンテーション） 第9回：Surveys – language focus: describing a survey and reporting the results. Assignment: construct a detailed survey.（アンケート調査-言語焦点。調査説明と結果報告。） 第10回：Conducting surveys and reporting results. Assignment: conduct an online and in-pe			

rson survey. (調査実施と結果報告)

第11回: Presentation skills – topic statements and concluding signals. Collating results and organizing data. Assignment: prepare presentation based on survey data. (プレゼンテーションスキル-トピック・ステートメントと結果のシグナル。結果をまとめ、データを整理する。)

第12回: Surveys – presentations and peer evaluations. Assignment: self-evaluation report. (アンケート調査のプレゼンテーション)

第13回: Course review and feedback. (振り返りとフィードバック)

テキスト

Present Yourself Level 2 Student's Book 2nd Edition by Gershon, S. (Cambridge University Press)

参考書・参考資料等

辞書持参すること。

学生に対する評価

プレゼンテーション3回×25%=75%、自己評価レポート15%、グループワーク10%

授業科目名： English Presentation II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： エドモンド・フェック 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 I に続き、国内外の聴衆に適したプレゼンテーションを行うスキルをさらに向上させる。			
授業の概要 I に続き、国際的な聴衆に向けたプレゼンテーションのスタイルを指導することを目的とし、プレゼンテーションのテクニックとともに、テーマに基づいた言語内容も学ぶ。グループプレゼンテーションを含む3つのメイン・プレゼンテーションを行い、より進んだ発表の機会を提供する。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：Facts or myths – language focus. Explaining a process. Assignment: research and write a step-by-step process. (事実か神話か-言語焦点) 第2回：Presentation skills – using emphasis. “How to” presentations – planning and writing. Assignment: appraise model presentation. (プレゼンテーションスキル-協調を使う。「いかに」プレゼンテーション) 第3回：Presentation skills – inviting and answering audience questions. Assignment: prepare presentation on a process. (プレゼンテーションスキル-聴衆に質問を促し、質問に答える) 第4回：Processes - presentations and peer evaluations. Assignment: self-evaluation report. (個人発表) 第5回：Opinion surveys. Discussing topics of interest to young people. Assignment: writing showing strong opinions and research to back up opinions. (意見概観-若者の関心のある話題について話し合う) 第6回：Language focus: expressing and supporting opinions. Assignment: conduct an online and in-person survey. (意見を述べる。意見を支持する。) 第7回：Presentation skills – Using stress and pauses for contrast. Voice projection. Assignment: prepare persuasive presentation based on strong opinion. (プレゼンテーションスキル-協調と休止を用いてメリハリをつける。) 第8回：Opinion presentations – presentations and peer evaluations. Assignment: self-evaluation report. (個人発表) 第9回：Current affairs – language focus. Understanding headlines and describing news stories. Assignment: reading comprehension based on news stories. (最近の話題-見出しを理解し、ニ			

ニュース記事を説明する。)

第10回 : Summarizing a news story. Assignment: watch a news report and write a summary. (ニュースの内容を要約する。)

第11回 : Presentation skills – pausing between phrases. Leading group discussions. Assignment: prepare group presentation. (プレゼンテーションスキル-グループディスカッション)

第12回 : News stories. – group presentations and peer evaluations. Assignment: self-evaluation report. (プレゼンテーション-グループ発表)

第13回 : Course review and feedback. (振り返りとフィードバック)

テキスト

Present Yourself Level 2 Student's Book 2nd Edition by Gershon, S. (Cambridge University Press)

参考書・参考資料等

辞書持参すること。

学生に対する評価

個人発表 : 2回×30%=60%、グループ発表 : 25%、自己評価レポート : 15%

授業科目名： Intensive Reading I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松田 憲 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 環境問題や科学の基本概念に関する英文を精読して理解を深める。 CEFR B2 レベル相当以上（TOEIC®L&R の Reading 385 点以上）を目指す。			
授業の概要 英文読解力を向上させるために、主題の把握や推測読み等のさまざまなリーディングスキルを理解し、文系理系を問わず今後重要となる科学技術英文の内容を理解できるようになる。			
授業計画 第1回：文中のヒント（タイトル）から予測して読む 第2回：文中のヒント（写真）から予測して読む 第3回：単語をスキミングして読む 第4回：必要な情報をスキミングして読む 第5回：各段落の主題を読み取る 第6回：各段落の主題及び支持するデータや例示等を読み取る 第7回：接頭辞から単語の意味を予測 第8回：接尾辞から単語の意味を予測 第9回：予測読み 第10回：推測読み 第11回：英文の論理展開を理解する 第12回：Words Per Minutes（WPM）を意識して読む 第13回：読解効率を意識して読む			
テキスト Our Home the Earth（Ian Bowring & Chris Coey、成美堂）			
参考書・参考資料等 授業中に適時関連資料を配布する。			
学生に対する評価 授業中の質問に対する回答(20%)、毎回の課題提出（30%）、定期試験(50%)			

授業科目名： Intensive Reading II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松田 憲 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 適時配布する関連資料も含めて、地球規模の問題や科学技術に関する英文を精読して理解を深め、より高度な英文読解力を養成する。CEFR B2レベル相当以上（TOEIC®L&RのReading 385点以上）の定着を図る。			
授業の概要 英文読解力を向上させるために、未知語の推測やスキミング・スキミング等のさまざまなリーディングスキルを学び、図表と関連付けながら英文を読み取るなどして、より高度な英文読解力を養成する。			
授業計画 第1回：内容の展開を予測して読む 第2回：文脈から内容の展開を予測して読む 第3回：単語をスキミングして読む 第4回：必要な情報をスキミングして読む 第5回：トピックを読み取る 第6回：段落パターン（列挙、時間的順序）の理解 第7回：段落パターン（比較、因果関係）の理解 第8回：同意語から未知語の類推 第9回：文脈から未知語の類推 第10回：スキミングで大意（概略、要旨）を読み取る 第11回：スキミングで大意（筆者の考え）を読み取る 第12回：Words Per Minute（WPM）を可視化して読む 第13回：読解効率を可視化して読む			
テキスト Our Home the Earth（Ian Bowring & Chris Coey、成美堂）			
参考書・参考資料等 授業中に適時関連資料を配布する。			
学生に対する評価 授業中の質問に対する回答(20%)、毎回の課題提出(英文の課題含む)(30%)、定期試験(50%)			

授業科目名： Academic Writing	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員： エドモンド・フェック 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 アカデミックなエッセイを適切な表現と公正で書けるようにする。			
授業の概要 本授業では、パラグラフの書き方からエッセイの書き方までを指導する。ブレインストーミングや編集など、ライティングへのプロセスアプローチをとり、アカデミックな枠組みの中で様々な合うタイトルのエッセイの書き方を学ぶ。また、ビジネスメール、アカデミックエッセイの参考文献の書き方も指導する。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：Introduction to Academic Writing. Understanding paragraph structure. Assignment: formatting an essay.（アカデミックライティング入門-段落構成の理解） 第2回：Topic sentences; editing for Unity & Coherence; freewriting. Assignment: write a 1-paragraph essay.（トピックセンテンス-自由作文） 第3回：Essay Types. Narrative essays. Assignment: Essay 1.（物語のエッセイ） 第4回：Narrative essay - peer review. Assignment: second draft of Essay 1.（物語のエッセイのピアレビュー） 第5回：Paragraph to Short Essay. Descriptive essays. Assignment: understanding descriptive essays.（パラグラフから小論文への段落展開。描写的エッセイ） 第6回：Using adjectives in descriptive essays. Writing test 1. Assignment: Essay 2.（描写的エッセイで形容詞を使う。ライティングテスト①） 第7回：Descriptive essays - peer review. Assignment: second draft of Essay 2.（描写的エッセイのピアレビュー） 第8回：Combining sentences. Business emails. Review descriptive essays.（文章の構成、ビジネスメール、描写的エッセイを見直す。） 第9回：Opinion essays. Writing test 2. Assignment: understanding opinion essays.（オピニオンエッセイ-意見を述べる。ライティングテスト②） 第10回：Opinion essays - using facts and opinions, research and references. Assignment: Essay 3.（オピニオンエッセイ-調査と引用を使い、事実と意見を述べる。） 第11回：Counter-argument and refutation. References. Assignment: Essay 3 second draft with references.（反論と反証）			

第12回 : Connectors. Peer review. Assignment: Essay 3 final draft. (接続詞について。ピアレビュー。)

第13回 : Course review. Writing test 3. (振り返りとライティングテスト③)

テキスト

なし

参考書・参考資料等

Readings for Academic Writing. Edited by Clay Williams et al. (Akita International University Press)

学生に対する評価

エッセイ1 - 10%。 エッセイ2 - 30%。 エッセイ3 - 30%。 授業中テスト-10% x 3 (合計30%)。

授業科目名： Tourism English	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： エドモンド・フェック 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、英語力と観光業界特有の知識を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 本授業では、航空会社、テーマパーク、ホテルの分野に焦点を当て、観光英語とホスピタリティの側面をカバーする。また、英語を使ってホスピタリティー分野での就職を目指す学生以外にも、ビジネス、海外留学、海外旅行等でも使える英語を身に付ける。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回： Tourism English introduction. What is tourism? Interviews of tourism professionals. Assignment: research one tourism job for presentation.（観光英語入門-観光とは何か？関係者へのインタビュー） 第2回： Tourism job presentation. Airlines - welcoming customers onboard and in-flight service. Language focus: polite requests.（航空会社：機内での出迎え、サービス 言語焦点-接客英語） 第3回： Low-cost carriers and Full service carriers. Airline help desk role plays. Assignment: research one airline company for presentation.（格安航空会社とフルサービスキャリア。ロールプレイ-航空会社ヘルプデスク） 第4回： Airline company presentation. Working for an airline. Job interview role plays. Language focus: giving reasons and talking about experiences.（ロールプレイ-航空会社就職面接 言語焦点-理由を述べたり、経験を話す。） 第5回： Sightseeing locations and ticket information. Visitor information center role plays. Language focus: open and closed questions. Assignment: research one sightseeing location for presentation.（ロールプレイ-観光案内所 言語焦点-オープンクエスションとクローズドクエスション） 第6回： Sightseeing location presentation. Tourist attractions. Asking & giving directions.（観光地において観光名所や道を尋ねる。） 第7回： Job descriptions and resumes. Personal statements and Letters of application. Assignment: write resume and personal statement.（職務経歴書と履歴書／自己PRと志望理由書） 第8回： Hotel operations. Booking a hotel. Assignment: research one hotel for presentation.（ホテルの運営と予約） 第9回： Recommended hotel presentation. Food and drink. Customs and etiquette for dining.			

Ordering dinner role plays. (おすすめのホテルのプレゼンテーション/ロールプレイ-食事の注文食事の習慣とエチケットについて)

第10回: Travel agents. Understanding customer's needs. Suggesting alternatives and making recommendations. Assignment: prepare a 3-day package tour plan. (旅行代理店 顧客のニーズを理解する。)

第11回: 3-day package tour presentation. Tour guiding. Language focus: providing information using present continuous. (3日間のパッケージツアーのプレゼンテーション。ツアーガイド。言語焦点-現在進行形をを使用した情報提供。)

第12回: Dealing with problems and complaints. Tour conductor duties. Language focus: suggestions and advice. (トラブルやクレームへの対応及びツアーコンダクター業務について。言語焦点-提案とアドバイス)

第13回: Course review and summary. (振り返りとフィードバック)

第14回: 定期試験

テキスト

Hospitality Communication by Nishina, Y., et al.. Sanshusha (2018). ISBN: 978-4-384-334477-7

参考書・参考資料等

辞書持参すること。

学生に対する評価

プレゼンテーション: 50%. 課題: 10%. 小テスト: 20%. グループワーク: 20%..

授業科目名： 英国森林文化論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：遠山 茂樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
<p>授業のテーマ：英国人と森。この授業では、英語で「森」を意味するウッドとフォレストの違いを理解し、その上で英国の代表的な森を取り上げながら、英国の森林文化の諸相をさぐり、その多様性と特質を把握する。また、森を舞台に現代にまで語り継がれているロビン・フッド伝説を通じて、文学に描かれた森や英国人の森林観についても学ぶ。</p>			
<p>授業の概要：一般に森林文化論で扱われる内容は多岐にわたる。具体的には、森を舞台に語り継がれている民話や伝承、森を取り巻く歴史上の出来事、森の保護・保全に関わる施策や法律、鉄づくりや炭焼きといった森の産業、近隣住民の入会・慣習、森林観や自然観などである。この授業では、これらのことを念頭に置きながら、英国人と森との係りを歴史的に考察し、英国の森林文化の諸相をさぐっていく。</p>			
<p>授業計画（授業時間1回105分）</p> <p>第1回：二つの森－フォレスト(Forest)とウッド(Wood)</p> <p>第2回：フォレストの歴史的起源－フランク王国のフォレスト</p> <p>第3回：ノルマン征服とフォレスト概念の導入</p> <p>第4回：ノルマン王朝期の森－ウィンザーの森</p> <p>第5回：ニューフォレストの創設と王の死</p> <p>第6回：アンジュー王朝期の森－ウッドストックの森</p> <p>第7回：大憲章（Magna Carta）と森の憲章（Forest Charter）</p> <p>第8回：森の犯罪と裁判</p> <p>第9回：ロビン・フッド伝説（その1）－13世紀起源説</p> <p>第10回：ロビン・フッド伝説（その2）－14世紀起源説</p> <p>第11回：森の鉄づくり－ディーンの森</p> <p>第12回：祝祭でまもる入会権－グロウヴリィの森</p> <p>第13回：植林活動－ジョン・イーヴリンの『森林』</p>			
<p>テキスト</p> <p>講義プリントを配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>遠山茂樹『ロビン・フッドの森－中世イギリス森林史への誘い－』（刀水書房、2022年）；遠山茂樹『森と庭園の英国史』（文藝春秋、2002年）；川崎寿彦『森のイングランド』（平凡社、1987年）；北村昌美『森林と文化』（東洋経済新報社、1981年）；筒井迪夫『森林文化への道』（朝日新聞出版、1995年）</p>			

学生に対する評価

毎回のコメントペーパー (5%)、課題レポート (15%)、定期試験 (80%)

授業科目名： 多文化共生論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：崔 博憲 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 英語圏における多文化主義の概要を理解したうえで、日本社会における多文化共生の歴史や可能性、課題について、その社会を構成する1人として自ら考えることができるようになる。			
授業の概要 経済構造や人口動態が大きく変化するなかで、日本社会の多文化化、多国籍化、多民族化が進んでいる。この授業では、こうした変化やそれへの社会的対応がグローバルな展開のなかで行われていることを確認したうえで、「多」を構成する人びとの事例をとりあげながら多文化共生について学ぶ。具体的には、まず多文化共生という概念の源流となったカナダやオーストラリアの多文化主義やアメリカの文化的多元主義の理念や展開を理解する。次に日本に目を移し、これまで日本が歴史的に異民族にどのように向き合ってきたのか、現代日本にやって来た人びとや新たに多文化の担い手として包摂されることになった人びとがどういった問題に向き合っているのか等について考える。また、地域社会のなかで多文化共生の当事者となっている外国人との交流も行う。			
授業計画 第1回：イントロダクション：多文化共生を考える意義 第2回：多文化共生論の源流①：政策としての多文化主義～カナダ・オーストラリア～ 第3回：多文化共生論の源流②：文化多元主義～アメリカ～ 第4回：日本社会の内なる多様性①：アイヌ、沖縄～近代化のなかで日本に組み込まれた人びと 第5回：日本社会の内なる多様性②：部落～被差別の歴史と現在 第6回：帝国日本とアジア①：旧植民地出身者～在日韓国朝鮮人を中心に 第7回：帝国日本とアジア②：中国残留邦人とその子孫～遅れて帰還した人びと 第8回：地域を支える外国人との交流～日本語教室で学ぶ技能実習生と交流～ 第9回：現代日本の周縁労働を担う外国人①：日系人、留学生 第10回：現代日本の周縁労働を担う外国人②：技能実習、特定技能、育成就労 第11回：地域や家族を支える：日本人と結婚した外国人（女性） 第12回：境界を生きる①：性的マイノリティ/LGBTQ+ 第13回：境界を生きる②：ハーフ or ダブル、それとも			
テキスト 使用しない。適宜レジュメや資料を配布する。			
参考書・参考資料等 ウィル・キムリッカ『多文化主義のゆくえ：国際化をめぐる苦闘』法政大学出版局、ISBN-10 : 4588603566			

成田龍一『戦後史入門』河出文庫、ISBN-10:430941382X

望月優大『ふたつの日本～「移民国家」の建前と現実』講談社現代新書、ISBN-10:4065151104

学生に対する評価 リアクションペーパー50%とレポート50%により評価を行う。

授業科目名： 英米文化論 a	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤 良浩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 アメリカの黒人差別の歴史を理解することで、異文化理解を深める。 原典資料の講読を通して、英語の資料を読み取る能力を向上させる。			
授業の概要 アメリカの南北戦争前後の時代から公民権運動に至るまでの黒人差別の歴史、及びその差別と闘ってきた人々の歴史を、英語の文献、文学作品や資料の抜粋を読みながらたどっていく。併せて、歴史的事実を描いた映画を視聴することで、それらの理解を深める。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：授業のガイダンス、南北戦争の前後から公民権運動までに至る黒人差別の歴史の概観 第2回：ハリエット・ビーチャー・ストウ著『アンクル・トムの小屋』（ <i>Uncle Tom's Cabin</i> ）講読 1 第3回：ハリエット・ビーチャー・ストウ著『アンクル・トムの小屋』（ <i>Uncle Tom's Cabin</i> ）講読 2 第4回：ハリエット・ビーチャー・ストウ著『アンクル・トムの小屋』（ <i>Uncle Tom's Cabin</i> ）講読 3 第5回：リンカーン「奴隷解放宣言」「ゲティスバーグ演説」講読、米国憲法修正 第13条（奴隷制の廃止）、第14条（解放民への市民権の付与）、第15条（投票権の保障） 第6回：南北戦争時の北軍の黒人部隊を描いた『グローリー』—人々の闘い視聴 第7回：ジム・クロウによる隔離政策、人種の分離を正当化した「プレッシー対ファーガソン裁判」に至るまでの過程と裁判の結果とその後への影響 第8回：W・E・B デュボイス著『黒人のたましい』（ <i>The Souls of Black Folk</i> ）講読 第9回：公民権運動に影響を与えた「ブラウン対教育委員会裁判」、リリアン・スミス『今こそその時』（ <i>Now is the time.</i> ）講読。「エメット・ティル事件」 第10回：公民権運動 ローザ・パークス著『自伝』（ <i>My Story</i> ）講読、キング牧師の代表選出 第11回：非暴力を貫いて黒人の権利を主張した人々の闘い『グローリー / 明日への行進』視聴 第12回：マーチン・ルーサー・キング著『自由への大いなる歩み』（ <i>Stride Toward Freedom</i> ）講読 第13回：マーチン・ルーサー・キング著『汝の敵を愛せよ』（ <i>Strength to Love</i> ）講読			
テキスト 適宜講義資料を配布する。			
参考書・参考資料等 『アメリカ黒人の歴史』（本田創造、岩波書店） 『アメリカ黒人史』（ジェームス・M・バーダマン著、筑摩書房）			
学生に対する評価 期末レポート（40%）、映像を見ての感想レポート（20%）授業中の質問に対する回答や読解への積極的参加度（40%）			

授業科目名： 英米文化論 b	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊藤 豊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：「英米文化」とその諸問題 ・到達目標： <p>本授業の主題である「英米文化」をめぐる様々な問題について、歴史や現代の事例を用いて多角的に検討し、異文化理解のための基本的視座と方法を学ぶ。到達目標は以下の通り：</p> <p>(1)授業で学んだ英語圏世界の歴史、社会、文化に関する基本的な内容と、文化的多様性を踏まえた異文化理解の現状ならびに課題を理解している。</p> <p>(2)相互に異なる文化的背景を持つ人々の交流の経緯と現状を、英語圏世界の事例を中心として学び、また、そうした学びを通じて文化の多様性を追体験し、異文化交流の意義について理解している。</p> <p>(3)授業で学んだ視座と方法を、様々な文化的事象に適用して考察し、期末試験の答案を作成できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本人にとっての「英米文化」とは、そもそも何を意味するのであろうか。この授業では、英米文化をめぐる様々な問題を、歴史や現代の事例に抛りつつ講義する。多様な文化的背景を持った人々が相互交流するに際して、いったい何がどのように問題化し、また解決や妥協が目指されてきたかを、英米圏での具体的な実例を紹介しつつ検討する。講義中は英米圏と日本との比較を適宜試みることで、受講者は文化の多様性や異文化交流の意義を、日本の歴史や現状の文脈で追体験し、理解することになる。毎回の講義後には質問票を通じて質問や異論などを聴取しつつ、授業に関する受講者の理解度を確認する。次の授業で前回出た質問への担当教員からのフィードバックを示しつつ、また講義に戻る、といった形式で進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「英米文化」の諸問題—序論として</p> <p>第2回：言説としての「アメリカ」という問題群—欧米と日本</p> <p>第3回：「西洋文明」と宣教</p> <p>第4回：「移民」と英米文化</p> <p>第5回：アングロ・コンフォーミティとしての移民同化</p> <p>第6回：移民同化論への賛否—アメリカ移民史を素材として</p> <p>第7回：出身地別移民規制とその文化的影響</p> <p>第8回：社会統合とエスニシティ—戦後アメリカにおける移民同化の諸相</p>			

第9回：9.11以降のアメリカ—反米主義から現代を考える

第10回：アメリカ（ニズム）の現代的インパクト

第11回：文化的他者としてのイスラーム—イギリスを素材として

第12回：イギリスのヴェール論争—争点と課題

第13回：まとめ—「英米文化」をどう理解するか？

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

- ・クリスチャン ヨプケ 『ヴェール論争—リベラリズムの試練』（法政大学出版局、2015年）
- ・日本比較文学会東北支部編『問題としての「アメリカ」—比較文学・比較文化の視点から—』（晃洋書房、2020年）

学生に対する評価

・基準

評価にあたっては、まず以下の3点を重視する：

(1)授業で学んだ英語圏世界の歴史、社会、文化に関する基本的な内容と、文化的多様性を踏まえた異文化理解の現状ならびに課題を理解できているか。

(2)相互に異なる文化的背景を持つ人々の交流の経緯と現状を、英語圏世界の事例を中心として学び、また、そうした学びを通じて文化の多様性を追体験し、異文化交流の意義について理解できているか。

(3)授業で学んだ視座と方法を、様々な文化的事象に適用して考察し、期末試験の答案を作成できているか。

これらの3点を基準として成績評価をおこない、合計で最低6割の得点率をもって合格と判断する。

・方法

授業参加状況（質問票の記入内容についての評価を含む）：50点、期末レポート：50点

授業科目名： 国際関係学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 東江 日出郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ： 国際関係学の諸理論、国際社会で起こる諸事象を、そのキーワードを用いて、自分の言葉で説明できるようになる。			
授業の概要： 政治とは社会的価値の権威的配分である。そして平和、経済発展、人権保護、環境保全等の問題は、国際社会の重要な価値であり、その配分のあり方に関して、何らかの意思決定が求められる。それらの価値を誰が、どのように、どの程度享受し、その費用は誰が負担すべきかが重要なテーマである。本講義は、そのような国際社会における社会的価値の権威的配分の場合や諸制度、アクター、それに対する考え方などの基礎知識の習得を目指す。			
第1回：導入(国際関係論の範囲と対象、主権国家から政治的権のグローバルな編成へ 第2回：政治的権威のグローバルな編成、国家から成るグローバルなシステムの誕生 第3回：国際関係論の理論1：理論とは何か？リアリズムとリベラリズム 第4回：国際関係論の理論2：コンストラクティビズム、英国学派、フェミニズム 第5回：国際関係論の理論3：ポスト・コロニアリズム、理論の使い方(混ぜて、調和させ、借用せよ) 第6回：現実の国際関係の事例(フィリピンの独立) 第7回：フィリピンと冷戦の展開 第8回：フィリピンと地域協力機構の形成(1945年-1967年) 第9回：フィリピンとASEANの発展(1967年-1990年初頭) 第10回：冷戦の終焉により幸福感に包まれたフィリピン 第11回：冷戦終了後のフィリピン外交を規定する要因 第12回：新たな冷戦とフィリピン外交の揺らぎ(新たな対外的脅威と経済発展の方向性) 第13回：まとめ			
テキスト ・ Christian Reus-Smit, 2020, "International Relations: A Very Short Introduction", Oxford. ・ クリスチャン・ルース＝スミット著、山本文史訳、『国際関係論』、創元社。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜指示する。			
学生に対する評価 1. 国際関係学の1つの分野を選んで、その分野の問題・課題について自ら調べて、レポート			

を作成する (50%)

2. 各授業で配布するレスポンスカードにその授業で学んだ内容についてコメントする (50%)

授業科目名： 異文化コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：阿部 隆夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標：社会の国際化で必要とされる柔軟な異文化間のコミュニケーション能力育成を主題とする。目標は、異文化間コミュニケーション論の現状と課題を理解させること、文化の多様性と異文化交流の意義について体験として理解させること、世界で英語が使われている地方の歴史、社会、文化の基本を把握させることにある。			
授業の概要：異文化間コミュニケーション論の誕生から現在まで発達した理論と応用例の説明、身近な異文化間の事例や世界で起こっている異文化間問題に対するこれら理論の応用について学ぶ。			
授業計画（授業時間1回105分）			
第1回：「異文化間コミュニケーション論の誕生」また、並行して各回で、副教材の事例1から事例26までを考察する。『納得の異文化間コミュニケーション』（以下『異文化』と略記）事例1, 2			
第2回：「異文化間コミュニケーション論の可能性」『沈黙の言葉』2&5章；異文化 事例3, 4			
第3回：「基本概念（文化の再定義）」異文化、事例5, 6			
第4回：「基本概念（常識の限界）」異文化、事例7, 8			
第5回：「基本概念（コミュニケーションの時間差）」『沈黙の言葉』1&9章；異文化、事例9, 10			
第6回：「基本概念（コミュニケーション空間）」『沈黙の言葉』10章；異文化、事例11, 12			
第7回：「基本概念の説明と応用（学習の形態差）」『沈黙の言葉』4章；異文化、事例13, 14			
第8回：「基本概念の説明と応用（認識の形態差）」『沈黙の言葉』4章；異文化、事例15, 16			
第9回：「基本概念の説明と応用（コミュニケーションの形態）」異文化、事例17, 18			
第10回：「心理学アプローチ」異文化、事例19, 20			
第11回：「歴史学アプローチ」近代の大航海交易に伴う異文化間コミュニケーション；事例21, 22			
第12回：「北アメリカの毛皮交易をめぐる異文化間交流」異文化、事例23, 24			
第13回：「アフリカの民族紛争での異文化間コミュニケーション問題」異文化、事例25, 26			
テキスト			
エドワード・T・ホール著「沈黙のことば」（南雲堂、1966年）、阿部隆夫・他著『42の事例から考える異文化間英語コミュニケーション』（開拓社、2020年）			
参考書・参考資料等：なし			
学生に対する評価			
提出課題（40%）と試験（60%）			

授業科目名： 英語科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大山 慎一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 英語教育の理念と実践に関する基礎・基本を身に付け、英語指導観を確立することができる。			
授業の概要 教育課程的視点から指導内容・指導方法の概要を理解し、効果的な指導理論を学ぶ。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：オリエンテーション、公教育としての英語教育が担うもの 第2回：どのような英語を教えるのか - World Englishes の時代に日本から発信する英語とは - 第3回：学習指導要領の研究（1）育成を目指す資質・能力と領域別の学習到達目標 第4回：学習指導要領の研究（2）指導計画の作成と学習指導案 第5回：学習指導要領の研究（3）指導と評価、小・中・高の英語教育を10年スパンで考える 第6回：教科用図書（1）小・中・高の教科書を概観する 第7回：教科用図書（2）教科書を用いて効果的に言語活動を展開する 第8回：聞くこと・話すことの指導（1）基本と展開 第9回：聞くこと・話すことの指導（2）マイクロティーチングⅠ 第10回：読むこと・書くことの指導（1）基本と展開 第11回：読むこと・書くことの指導（2）マイクロティーチングⅡ 第12回：技能統合型の言語活動（1）話すこと（発表・やりとり）を軸に 第13回：技能統合型の言語活動（2）マイクロティーチングⅢ、英語科教育法Ⅰのまとめ			
テキスト 望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』（大修館書店） 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』（開隆堂） 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』（開隆堂） 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』（開隆堂）			
参考書・参考資料等 白井恭弘『英語教師のための第二言語習得論入門』（大修館書店）			
学生に対する評価 ペーパーテストによる知識・技能の評価、パフォーマンステストによる技能の評価			

授業科目名： 英語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大山 慎一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 英語の言語学的な特性について理解し、授業設計や学習評価の学びに生かすことができる。			
授業の概要 英語の特性についての理解に基づき、授業設計や学習評価の重要事項を実践的に学ぶ。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：英語の音声の特徴と発音指導 第2回：英語の文字と発音の関係を踏まえた指導 第3回：語彙・表現と文法の効果的な指導 第4回：異文化コミュニケーションの視点を生かした英語の授業 第5回：英語教育におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）とICT活用 第6回：英語で進めるインタラクティブな授業（1）Classroom Englishの展開 第7回：英語で進めるインタラクティブな授業（2）ゲーム的要素や探究的要素と学び 第8回：英語で進めるインタラクティブな授業（3）ALT等とのチーム・ティーチング 第9回：生徒の特性や個人差、習熟度に応じた指導 第10回：観点別学習状況の評価（1）観点別評価の基本 第11回：観点別学習状況の評価（2）評価規準の設定から評定への総括へ 第12回：言語能力の測定と評価（1）測定と評価、目的に応じた様々な評価、テストの種類と方法 第13回：言語能力の測定と評価（2）パフォーマンステストの展開、テスト作成の手順と採点・評価、英語科教育法Ⅱのまとめ			
テキスト 望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』（大修館書店） 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』（開隆堂） 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』（開隆堂） 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』（開隆堂）			
参考書・参考資料等 白井恭弘『英語教師のための第二言語習得論入門』（大修館書店）			
学生に対する評価 ペーパーテストによる知識・技能の評価、パフォーマンステストによる技能の評価			

授業科目名： 英語科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大山 慎一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学習到達目標を踏まえた授業設計を基に、学習指導案とテストを作成することができる。			
授業の概要 授業設計の基本から学習指導案作成、テスト作成までを、演習を核として実践的に学ぶ。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：学習到達目標に基づく授業設計（1）目標のブレイクダウン ー教科・科目→単元→本時ー 第2回：学習到達目標に基づく授業設計（2）「指導と評価の一体化」とはどのようなことか 第3回：学習指導案の作成（1）学習指導案の基本構造、教材観・生徒観・指導観 第4回：学習指導案の作成（2）単元の指導計画、本時の指導過程、指導計画と評価計画 第5回：学習指導案の作成（3）演習①（グループごとに作成） 第6回：学習指導案の作成（4）演習②（合評会） 第7回：テストと評価（1）テスト理論をテスト作成に生かす 第8回：テストと評価（2）演習① ペーパーテストの作成・実施 第9回：テストと評価（3）演習② パフォーマンステストの作成・実施 第10回：テストと評価（4）学習動機を強化する効果的なフィードバック 第11回：マイクロティーチングⅣ ①授業の構想、指導計画の作成 第12回：マイクロティーチングⅣ ②学習指導案の作成（個人ごと） 第13回：マイクロティーチングⅣ ③模擬授業の実践、合評会、英語科教育法Ⅲのまとめ			
テキスト 望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』（大修館書店） 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』（開隆堂） 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』（開隆堂） 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編』（開隆堂）			
参考書・参考資料等 白井恭弘『英語教師のための第二言語習得論入門』（大修館書店）			
学生に対する評価 ペーパーテストによる知識・技能の評価、パフォーマンステストによる技能の評価			

授業科目名： 英語科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大山 慎一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 第二言語習得論の知見を生かした指導法と多様なニーズへの対応力を身に付けることができる。			
授業の概要 第二言語習得論の知見と指導法を関連付けて学ぶとともに英語教師としての未来を構想する。			
授業計画（授業時間 1 回 105 分） 第 1 回：SLA の知見を授業に生かす（1）母語習得と第二言語習得 第 2 回：SLA の知見を授業に生かす（2）〈インプットーインタラクションーアウトプット〉モデル 第 3 回：SLA の知見を授業に生かす（3）認知的アプローチと社会的アプローチ 第 4 回：SLA の知見を授業に生かす（4）第二言語習得と外国語教育 第 5 回：SLA の知見を授業に生かす（5）外国語適性と個人差、効果的な動機付け 第 6 回：SLA の知見を授業に生かす（6）マイクロティーチングⅤ ①授業参観・授業体験 第 7 回：SLA の知見を授業にいかす（7）マイクロティーチングⅤ ②SLA を生かした言語活動 第 8 回：多様なニーズに対応する英語指導（1）探究型学習、地域貢献活動、入試等への対応 第 9 回：多様なニーズに対応する英語指導（2）部活動、スピーチコンテスト、留学準備等への対応 第 10 回：学び続ける英語教師（1）教師自身の英語力の向上のための研修 第 11 回：学び続ける英語教師（2）英語指導力の向上のための研修 第 12 回：21 世紀中盤の英語教育に向けて（1）英語教育における AI の効果的活用 第 13 回：21 世紀中盤の英語教育に向けて（2）多文化共生と英語教育、Well-being と英語教育、 英語科教育法Ⅳのまとめ			
テキスト 望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第 3 版』（大修館書店） 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』（開隆堂） 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編』（開隆堂） 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 外国語編 英語編』（開隆堂）			

参考書・参考資料等

白井恭弘『英語教師のための第二言語習得論入門』（大修館書店）

学生に対する評価

ペーパーテストによる知識・技能の評価、パフォーマンステストによる技能の評価

授業科目名： 介護等体験	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 早川 隆・今野 誠
			担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標 個人の尊厳及び人権意識を体験的に学び、社会連帯の理念に対する認識を深める。			
授業の概要 特別支援学校及び社会福祉施設における「介護等体験」（特別支援学校2日間・社会福祉施設5日間）及び事前・事後指導で構成される。事前指導では、特別支援学校、社会福祉施設に対する理解を深めるとともに、「介護等体験」に臨む際の自己目標をたてる。事後指導では、自己の体験を振りかえった上で、グループワークを行い、特別支援教育・社会福祉施設についての理解を深める。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：介護等体験の目的と意義（担当全員） 第2回：介護等体験を行う際のマナー講習（外部講師） 第3回：障害のある子どもとのかかわり方（担当：早川） 第4回：社会福祉施設と利用者への理解（担当：早川） 第5回：障害のある子ども・高齢者・障がい者への理解－車イスの操作などの体験演習（担当：早川） 第6回：社会福祉施設と利用者への理解 体験に向けての目標設定（担当：早川） お礼状の書き方（担当：今野） 第7回：社会福祉施設における介護等体験(1) 第8回：社会福祉施設における介護等体験(2) 第9回：社会福祉施設における介護等体験の振り返り・発表（担当全員） 第10回：特別支援学校における介護等体験に向けての目標設定（担当：早川） 第11回：特別支援学校の見学と打ち合わせ（担当全員） 第12回：特別支援学校における介護等体験 第13回：特別支援学校における介護等体験の振り返り・発表（担当全員）			
テキスト ①全国特別支援学校長会全国特別支援教育教育推進連盟編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』ジヤーズ教育社、2020年 ②増田雅陽ら『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会、2018年			

参考書・参考資料等

授業の際に資料を配付する。

学生に対する評価

社会福祉施設・特別支援学校における体験の計画・目標の作成（30点）、体験ノートの作成・振り返り・発表（70点）から評価を行う。体験先からの証明書の送付をもって単位認定を行う。

授業科目名： 教育学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：白旗 希実子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標 教育について、子ども、学校、教師の仕事などの側面から考える。「教育」について自分なりの考えを述べることができる。			
授業の概要 子ども観、学校、教師、教科書など、教育に関する様々な側面から「教育」について考える。			
授業計画 第1回：教育とは何か 子ども観 第2回：学校とは何か 不登校 第3回：国民国家と教育 シティズンシップ 第4回：目標・評価・学力 アクティブラーニング 第5回：メディアとしての教材と教科書 学びの空間のデザイン 第6回：生活指導 第7回：教師とは何か [グループワーク] 第8回：教師の力量とアイデンティティの形成 [グループワーク発表] 第9回：ジェンダーとセクシュアリティ 第10回：子育て 第11回：子どもの学習と参加の権利 第12回：多文化教育 第13回：チームとしての学校			
テキスト 木村元・小玉重夫・船橋一男著『教育学をつかむ [改訂版]』有斐閣、2019年、ISBN978-4-641-17726-0。その他、必要に応じて、プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 講義内で適宜、紹介する。			
学生に対する評価 中間レポート30点分（テーマについて1200字程度）、グループワークの発表5点分、定期試験65点分（選択式・穴埋め式70%程度、記述式・論述式30%程度）。			

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：梅木 仁 担当形態：単独
科 目	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 英語） ・大学が独自に設定する科目（高等学校 英語） 		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の理論及び指導法 ・大学が独自に設定する科目 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>道徳教育の学校教育における意義を明らかにするとともに、学校の教育活動全体で行う総合単元的な道徳学習の在り方や道徳科における多様な指導法について、先駆的な実践等を通し学びながら、自ら指導案を作成したり、模擬授業をしたりしながら授業力を高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育の目的である「人格の完成」の基盤となる道徳性を育てることが道徳教育の使命である。道徳科新設に至る我が国の道徳教育の歴史的な変遷を踏まえ、「中学校学習指導要領」に基づき学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育のあり方について考察するとともに、道徳教育の要である道徳科の指導法について理解を深める。</p>			
<p>授業計画（授業時間1回105分）</p> <p>第1回：我が国の道徳教育の歴史的な変遷①</p> <p>第2回：我が国の道徳教育の歴史的な変遷②</p> <p>第3回：「特別の教科 道徳」新設の経緯</p> <p>第4回：現行「学習指導要領」の分析と理解①～「改訂の要点」</p> <p>第5回：現行「学習指導要領」の分析と理解②～「道徳教育の目標」と「道徳科の目標」</p> <p>第6回：現行「学習指導要領」の分析と理解③～「道徳科の内容」</p> <p>第7回：現行「学習指導要領」の分析と理解④～「道徳科の指導計画の作成と内容の取扱い」</p> <p>第8回：現行「学習指導要領」の分析と理解⑤～「道徳科の評価」</p> <p>第9回：道徳科学習指導案の内容理解と作成手順</p> <p>第10回：道徳科における学習指導の多様な展開①</p> <p>第11回：道徳科における学習指導の多様な展開②</p> <p>第12回：道徳科模擬授業の実践①</p> <p>第13回：道徳科模擬授業の実践②</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中学校学習指導要領(H29告示)」 ・学研みらい 中学校道徳教科書「新・中学生の道徳 明日への扉」(3年用) 			

参考書・参考資料等

「中学校学習指導要領(H29告示)解説 道徳編」

学生に対する評価

- ・各授業テーマに関する演習課題
- ・講義中に提示される課題追究への姿勢及びグループワークでの協働性
- ・各自作成の道徳科指導案及び模擬授業
- ・毎回実施の授業の振り返り(自己評価)

授業科目名： 憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：森元 拓 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 立憲主義の意義について説明できる。</p> <p>(2) 憲法の諸原理について説明できる。</p> <p>(3) 基本的人権の意義と概要について説明できる。</p>			
授業の概要			
<p>そもそも憲法とはどのような法律なのだろうか。我々の生活にどのように関わってくるのだろうか。このような観点から憲法について考察していきたい。</p>			
授業計画（授業時間1回105分）			
第1回：イントロダクション			
第2回：憲法の意味・基本的人権の保障			
第3回：人権規定の私人間効力			
第4回：幸福追求権			
第5回：法の下での平等			
第6回：思想・良心の自由			
第7回：信教の自由と政教分離			
第8回：表現の自由			
第9回：経済的自由権			
第10回：生存権			
第11回：国会			
第12回：内閣			
第13回：裁判所			
テキスト			
中村睦男他編著『はじめての憲法学（第4版）』（三省堂、2021年）			
参考書・参考資料等			
芦部 信喜『憲法 [第7版]』（岩波書店、2019年）			
学生に対する評価			
成績評価は期末試験による。			

授業科目名： 体育と健康 a	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：土門 昌弘 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツ・運動を楽しみ、生涯スポーツの重要性を学ぶ。 主体的にスポーツを楽しみ、仲間とコミュニケーションをとり、円滑にプレーする。 スポーツのルールを学び、守る。			
授業の概要 体育理論及び実技（各種スポーツ）を行う			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：オリエンテーション、種目の選択とスポーツの実践、運動時のリスクマネジメント 第2回：トレーニング（なわとび）、選択種目（テニス、バドミントン、卓球等）ローテーション 第3回：トレーニング（なわとび）、選択種目（テニス、バドミントン、卓球等）ローテーション 第4回：トレーニング（なわとび）、選択種目（テニス、バドミントン、卓球等）ローテーション 第5回：トレーニング（なわとび）、選択種目（テニス、バドミントン、卓球等）ローテーション 第6回：トレーニング（なわとび）、選択種目（テニス、バドミントン、卓球等）ローテーション 第7回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション 第8回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション 第9回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション 第10回：ゴルフ実習 第11回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション 第12回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション 第13回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション			
テキスト 授業の内容に沿って資料を配布。			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 各種目スポーツに対する理解度、習熟度及び、授業への積極的参加や協働性、協調性を観点とする。 運動能力に関係なく、スポーツを楽しめる環境づくりに努めているかなどを観点として、総合的に判断する。			

授業科目名： 体育と健康 b	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：土門 昌弘 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツ・運動を楽しみ、生涯スポーツの重要性を学ぶ。 主体的にスポーツを楽しみ、仲間とコミュニケーションをとり、円滑にプレーする。 スポーツのルールを学び、守る。			
授業の概要 体育理論及び実技（各種スポーツ）を行う			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：オリエンテーション、種目の選択とスポーツの実践、運動時のリスクマネジメント 第2回：トレーニング（なわとび）、選択種目（テニス、バドミントン、卓球等）ローテーション 第3回：トレーニング（なわとび）、選択種目（テニス、バドミントン、卓球等）ローテーション 第4回：トレーニング（なわとび）、選択種目（テニス、バドミントン、卓球等）ローテーション 第5回：トレーニング（なわとび）、選択種目（テニス、バドミントン、卓球等）ローテーション 第6回：トレーニング（なわとび）、選択種目（テニス、バドミントン、卓球等）ローテーション 第7回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション 第8回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション 第9回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション 第10回：スケート実習 第11回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション 第12回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション 第13回：トレーニング（なわとび）、選択種目（バスケットボール、サッカー等）ローテーション			
テキスト 授業の内容に沿って資料を配布。			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 各種目スポーツに対する理解度、習熟度及び、授業への積極的参加や協働性、協調性を観点とする。 運動能力に関係なく、スポーツを楽しめる環境づくりに努めているかなどを観点として、総合的に判断する。			

授業科目名： EAP1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松田 憲、富田 かおる 担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>自分の専門分野や興味に関連したテーマについて、事実に基づいたわかりやすい英文を読んで十分に理解できるようになることを目的とする。</p> <p>CEFR B1レベル相当以上（TOEIC®L&RのReading 275点以上）の定着を図る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英文読解力を向上させるために、スキミングなどのリーディングスキルを活用してさまざまなトピックを扱った英文の速読を行うとともに、英語の語彙力の向上を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：小テスト、導入（シラバス、効率的に速読を行う際の要点）</p> <p>第2回：小テスト、Unit 1 Formal letter writing: A dying art?</p> <p>第3回：小テスト、Unit 2 U.S. teens: Reading is Interesting!</p> <p>第4回：小テスト、Unit 3 How old is old enough?</p> <p>第5回：小テスト、Unit 4 The history of Hollywood</p> <p>第6回：小テスト、Unit 5 Numbers and beliefs</p> <p>第7回：小テスト、Unit 7 Breakfast like a king</p> <p>第8回：小テスト、Unit 9 FAQs about recycling</p> <p>第9回：小テスト、Unit 10 Time for work, and time for play</p> <p>第10回：小テスト、Unit 11 Netiquette</p> <p>第11回：小テスト、Unit 15 Numerology</p> <p>第12回：小テスト、Unit 16 Addicted to chocolate</p> <p>第13回：Unit 17 Is your diet destroying the environment? 速読に関するまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>Intermediate Skills for Reading (Neil J. Anderson、成美堂)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適時関連資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への積極的参加(20%)、小テストとe-learningの取組み(30%)、定期試験(50%)</p>			

授業科目名： EAP2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ティモシー・バンティング 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>仕事、学校、レジャーなど普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方であれば、主要な点を聞いて理解できるようになることを目的とする。</p> <p>CEFR B1レベル相当以上（TOEIC®L&RのListening 275点以上）の定着を図る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>自然な速さの標準的な英語で話されれば、英語で行われる講義の内容やネイティブスピーカー同士の会話の要点を理解できるようになることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：コース概要、リング・フランカとしての英語、語彙、Unit 1 The Amalfi Coast 第2回：前回復習、スピーキングレポート、短母音の発音、Unit 2 The Laboratory 第3回：前回復習、スピーキングレポート、二重母音の発音、Unit 3 The Report 第4回：前回復習、スピーキングレポート、子音の発音、Unit 4 The Dog's Bell 第5回：前回復習、スピーキングレポート、ミニマルペア発音1、Unit 5 Ironman Races 第6回：前回復習、スピーキングレポート、ミニマルペア発音2、Unit 6 The Twins 第7回：前回復習、スピーキングレポート、ミニマルペア発音3、Unit 7 The Best Prince 第8回：前回復習、スピーキングレポート、子音連結の発音、Unit 8 How the Sun and the Moon were made 第9回：前回復習、スピーキングレポート、核強勢、Unit 9 Service Animals 第10回：前回復習、スピーキングレポート、ディクテーション、Unit 10 The First Peacock 第11回：前回復習、スピーキングレポート、電話会話1、Unit 11 Keeping our Earth Clean 第12回：前回復習、スピーキングレポート、電話会話2、Unit 12 The Crazy Artist 第13回：語彙の総復習、スピーキングレポート、Unit 13 The Taxi Driver</p>			
テキスト：4000 Essential English Words (2nd Edition) 1 (Paul Nation, Compass Publishing)			
参考書・参考資料等：授業中に適時関連資料を配布する。			
<p>学生に対する評価</p> <p>スピーキングレポート(40%)、スピーキング/リスニングテスト(20%)、Graded Readers(20%)、教科書の課題 (20%)</p>			

授業科目名： セキュリティ論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：植田 和憲 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報技術の高度化と普及に伴い、様々な情報技術が日常生活の隅々にまで浸透している。本講では、このような情報社会において重大な課題となっている情報セキュリティ技術を扱う。この授業を通し、基礎となるセキュリティ技術を学んだうえでネットワーク上の脅威について理解し対策手法を身につけることを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報セキュリティ技術における基礎的な概念や具体的な内容を解説するとともに、実社会で用いられている情報システムの概要や、実際に発生した情報セキュリティに関連する事例なども取り上げる。演習ではそれらの調査および発表についてもおこなう。</p>			
<p>授業計画（授業時間1回105分）</p> <p>第1回：概説「セキュリティとは何か」</p> <p>第2回：暗号化技術</p> <p>第3回：認証技術</p> <p>第4回：インターネットセキュリティ</p> <p>第5回：Web セキュリティ</p> <p>第6回：個人情報とプライバシー、セキュリティマネジメント</p> <p>第7回：振り返りおよび課題発表</p>			
<p>テキスト</p> <p>指定しない</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「暗号技術入門 第3版 秘密の国のアリス」結城浩著（SBクリエイティブ）ISBN: 978-4797382228</p> <p>「体系的に学ぶ 安全なWebアプリケーションの作り方 脆弱性が生まれる原理と対策の実践 第2版」徳丸浩著（SBクリエイティブ）ISBN: 978-4797393163</p> <p>「安全なウェブサイトの作り方」改訂第7版 独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター URL: https://www.ipa.go.jp/security/vuln/websecurity/ug65p900000196e2-att/000000017.pdf その他、授業中に提示</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業各回の課題（60%）、課題発表（40%）により評価する。</p>			

授業科目名： AIと社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：山本 裕樹 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 ビッグデータとAIの有効性と危険性について理解する。 個人情報とその保護について理解する。			
授業の概要 Society5.0に向けてあらゆる人々の個人情報を集めたビッグデータの利活用が進んでいる。ビッグデータの利活用が進んでいる背景にはAIの著しい進歩が深く関係している。本講義ではビッグデータとAIの利活用の事例を通じてその有効性と危険性について学ぶ。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：社会におけるビッグデータとAIの利活用 第2回：AI サービスの責任の所在 第3回：AIの倫理 第4回：データの倫理 第5回：個人情報データの社会的利用 第6回：海外の個人情報保護制度 第7回：まとめ			
テキスト 教科書は使用しない。資料を適宜配布する。			
参考書・参考資料等 「AIリテラシーの教科書」 浅岡伴夫・松田雄馬・中松正樹,東京電機大学出版会 「ICT・AI時代の個人情報保護」 別所直哉,金融財政事情研究会 「教養としてのデータサイエンス」 北川源四郎・竹村彰通,講談社			
学生に対する評価 毎回の演習（20%）、定期試験（80%）で評価する。3回以上欠席で評価無しとする。 課題はMoodleでフィードバックを行う。			

授業科目名： 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 西村 まどか, 平居 悠, 保科 紳一郎, 廣瀬 美紀
			担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 正しいコンピュータリテラシーの修得			
授業の概要 コンピュータを文房具のように扱える技能の修得から始めて、単なる文房具以上の効果的な利用に不可欠な理論を理解する。			
授業計画（授業時間 1 回 105 分） 第 1 回：計算機の仕組みと基本操作・ネットワーク使用のモラル 第 2 回：文字入力とタイピング練習 第 3 回：電子メール 基本概念と操作方法・注意点 第 4 回：ワードプロセッサ 基本操作 第 5 回：ワードプロセッサ スタイル・書式 第 6 回：電子メール 操作と概念の確認 第 7 回：ワードプロセッサ 図表・相互参照 第 8 回：ワードプロセッサ 成果確認 第 9 回：Web 技術 HTML 基本要素 第 10 回：Web 技術 HTML 箇条書・表・その他の要素 第 11 回：Web 技術 CSS(ルールの表記法とプロパティ) 第 12 回：Web 技術 CSS(class の利用・アクセシビリティ) 第 13 回：これまでのまとめ・タイピングテスト・総合課題作成			
テキスト：学内サーバ(roy)の科目ごとの講義ノート参照			
参考書・参考資料等 * オープンガイドブック OpenOffice.org 2.0 (グッデイ ISBN-10: 4860101235) * 学生のための OpenOffice.org (東京電機大学出版局 ISBN-10: 501542802) * http://roy/ の Web 資料			
学生に対する評価 平常課題(4 割), 総合課題(4 割), タイピング(2 割)の出来具合で評価する。 評価の比重は担当者や受講者の到達度により適宜変更することがある。			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：白旗 希実子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 教育に関する諸概念並びに教育の本質及び目標、教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。講義で取り上げる教育に関する歴史、教育に関する思想を理解している。			
授業の概要 教育に関する基礎的概念について学ぶ。また、教育に関する思想や教育に関する歴史について学ぶ。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：教育をどのように捉えるか 第2回：子ども・家庭・社会 第3回：公教育の組織化 第4回：西洋教育思想の源流、宗教と教育（1）ルネサンス、エラスムスとルター 第5回：宗教と教育（2）コメニウス、近代教育の思想 第6回：新教育の思想 第7回：近代学校の誕生と展開 第8回：日本における近代以前の人間形成 第9回：日本型の学校の形成 第10回：戦後の学校 第11回：西洋における教育の実践 第12回：日本における教育の実践 第13回：情報化社会の公教育			
テキスト 木村元・汐見稔幸編著『アクティベート教育学① 教育原理』ミネルヴァ書房、2020年、ISBN978-4-623-08813-3			
参考書・参考資料等：講義内で適宜、紹介する。			
学生に対する評価 中間レポート30点分（テーマについて1200字程度）、定期試験70点分（選択式・穴埋め式70%程度、記述式・論述式30%程度。中間レポートについてはフィードバックを行う。			

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 泰 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教職は生徒と学校生活を過ごし、自己研鑽を積みながら共に生涯に渡り、人間成長することができる崇高な職業であること。そのような教職へ関心を持つことができる。職務内容は法規に制度化されたものであることを理解し、教員免許取得の意欲づけとする。			
授業の概要 学校に対して「教師の指導力」向上を求める社会の要請は大きい。学生達が義務教育や高等教育で、担任や担任外の教師から受けた授業、生徒指導、学級生活が学校体制の下で意図的、計画的に実施されてきたことを想起させる。自己の経験を基に教師の職務の実際を学ばせる。教職は、指導者として常に学び続け、生徒の人間成長に関わっていく喜びを得ることができる職業であることを学び、免許取得の意欲付けとする。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：「教職」の意味（日本や欧米の中世や近代の学校制度、免許制の変遷） 第2回：教育の目的と「公教育制度」（教育の思想、「教育勅語」「教育基本法」「教育振興計画」） 第3回：学校の意義と役割（他の職業との比較、特徴。学校教育目標具現のための運営と経営） 第4回：教員の役割と職務内容。（教職観の変遷。求められる資質、能力、役割、服務について法規からも学ぶ） 第5回：教員の職務内容 学級経営（1）いじめ、不登校生徒への対応 第6回：教員の職務内容 学級経営（2）担任の職務と担任外との連携・学級経営の機能。学級課題への対応 第7回：教育課程（1）「教育課程の編成」と学習指導要領 第8回：教育課程（2）「教育課程経営力」（教科・領域の充実） 第9回：学習指導（1）授業構成について（教えるとは、授業とは）教科書と副教材 第10回：生徒指導（生徒指導とは。学習指導との関連。配慮を要する生徒対応） 第11回：教育評価（評価の種類、目的、学力のとらえ方） 第12回：チーム学校運営への対応（校内組織のあり方・外部機関との連携の必要性） 第13回：チーム学校運営への対応（危機管理対応力・学校、保護者、地域のセーフティネットの構築）			
テキスト 「新しい時代の学校教育と教職の意義（神山安弘 著）」大空社。 その他に毎時間、講義内容のレジメと関連資料を印刷準備し、学生に配布する。			

参考書・参考資料等

学習指導要領（現行 英語科編） 中学校・高校指導要領解説 、生徒指導提要（文部科学省）、教育小六法・（山形県教育振興計画）

学生に対する評価

1. 受講時の学習姿勢・態度、習得の度合いを継続的に観察、記録し評価する。（3割）
2. 随時、小課題のレポートを評価する。（2割）
3. 筆記試験（穴埋め式と論述式の課題（5割）。1～3の総合合計で評価する。

授業科目名： 教育行政	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：澁江 学美 神田 直弥 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 我が国の学校及び教育行政組織の特徴を理解し、その実務や実践等に関する実態について理解することができる。</p> <p>2. 教育制度を支える理念、法令等に関する理解を深め、学校と教育委員会の関係、教育委員会と文部科学省との関係等について理解することができる。</p> <p>3. 教育行政をめぐる諸課題を把握し、その解決策や諸機関との連携の在り方、学校現場や教職員等が抱える今日的課題について他者と討議したり考察することができる。</p>			
授業の概要			
<p>前半では教育行政の基盤にある理念や法的枠組み、教育制度の仕組みや役割、組織等について概説する。その上で、国や地方公共団体が教育法規をもとに行っている教育政策等について具体的課題を取り上げながら、学校と教育行政の関わり、具体的な仕組みや実態について概説する。グループにおけるディスカッション、出身自治体に関するリサーチや発表等を主体的な学びを通して理解を深めていく。</p>			
授業計画（授業時間：1回105分）			
第1回：イントロダクション 教育行政とは何か 教育を受ける権利と公教育制度（担当：澁江）			
第2回：教育法規の基本原理・体系（担当：澁江）			
第3回：学校経営を支える中央教育行政（担当：澁江）			
第4回：学校経営を支える地方教育行政（担当：澁江）			
第5回：学習指導要領の変遷と教育課程・カリキュラムマネジメント（担当：澁江）			
第6回：学校経営を支える関係機関との連携・協働（担当：澁江）			
第7回：学校・学級経営と教育行政Ⅰ（教育の諸課題①いじめ問題・不登校）（担当：澁江）			
第8回：学校・学級経営と教育行政Ⅱ（教育の諸課題②学校安全と学校の危機管理）（担当：神田）			
第9回：学校・学級経営と教育行政Ⅲ（教育の諸課題③インクルーシブ教育・多様性）（担当：澁江）			
第10回：教職員の職務と研修（応急手当講習を含む）（担当：神田）			
第11回：教職員マネジメント（組織・財務マネジメント）（担当：澁江）			
第12回：学校と地域の連携（担当：澁江）			
第13回：教育行政と学校経営（総括）（担当：澁江）			
テキスト			

適宜、資料を配付する。

参考書・参考資料等

勝野正章・藤本典裕（編）『教育行政学』学文社

第4次教育振興基本計画（文部科学省 2023年）第7次山形県教育振興計画（令和7年）

『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』、阿内春生編（昭和堂）2024年

『教育政策・行政の考え方』村上祐介・橋野晶寛著（有斐閣ストゥディア）2020年

学生に対する評価

授業期間中に課す提出課題（30%）、レポート（50%）、授業での発言や発表（20%）で総合的に判断する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡辺（日高） 伸子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 教育心理学の基礎的な概念を身につけることを第1の目標とする。また、現代の教育における諸問題を、教育心理学的観点から理解する力をつけることを第2の目標とする。			
授業の概要 教育心理学の基礎的な概念について学ぶ。学習理論の他、対人関係の発達について学ぶ。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：教育心理学とは何か/教育心理学の歴史 第2回：記憶 第3回：知識と問題解決 第4回：学習(1)（古典的条件づけと道具的条件づけ） 第5回：学習(2)（社会的学習：観察学習と自己調整学習） 第6回：動機づけ 第7回：学級集団 第8回：教授法 第9回：発達の理論(1)（遺伝と環境、臨界期と敏感期） 第10回：発達の理論(2)（知的発達） 第11回：発達の理論(3)（人格発達） 第12回：友人関係 第13回：まとめ			
テキスト 『やさしい教育心理学 第5版』鎌原雅彦・竹綱誠一郎（著）有斐閣			
参考書・参考資料等 必要に応じて統計資料などを配布する。			
学生に対する評価 最終試験（100%）により評価を行う。			

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：早川 隆 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念と仕組み、各学校に求められる取組を理解している。(2) 発達障害や様々な障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心理的特性及び学習の過程に基づいた支援方法が分かり、教育の場や教育課程などについて理解している。(3) 障害の有無にかかわらず、様々な理由で学習上又は生活上の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の困難とその対応、関係機関と連携した取組みについて理解する。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、様々な障害のある子どもの教育的ニーズの理解や支援のあり方を考え、「特別支援教育」の理念や制度、さらには共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育システムの構築」の現状と課題について、障害等に関する擬似体験やグループワークを取り入れることで理解を深める。それにより、障害のある人たちの社会的なニーズが多様化する中で、一人一人の自立に向けた教育の重要性、さらに学校等における特別支援教育システムと教師の役割についての理解を深めていく。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、障害観の変遷と特別支援教育の理念と対象、学びの場			
第2回：特別支援教育の法的な整備と動向（インクルーシブ教育システムの構築を含む）			
第3回：障害についての基礎知識と教育的対応：視覚障害、聴覚障害			
第4回：障害についての基礎知識と教育的対応：知的障害			
第5回：障害についての基礎知識と教育的対応：肢体不自由、病弱・身体虚弱			
第6回：障害についての基礎知識と教育的対応：発達障害1（LD、ADHD）			
第7回：障害についての基礎知識と教育的対応：発達障害2（ASD）			
第8回：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒（母国語や貧困の問題等）			
第9回：学校における特別支援教育体制（特別支援教育コーディネーターの役割、校内委員会、個別の指導計画と個別の教育支援計画、合理的配慮等）			
第10回：特別支援学校及び特別支援学級、通級による指導の教育課程、自立活動			
第11回：各機関の連携による特別支援教育、特別支援学校のセンター的機能			
第12回：早期発見・早期療育			
第13回：個別移行支援計画と就労支援及び社会参加			
第14回：講義のまとめ、試験			

テキスト

授業中に適宜資料を配付する

参考書・参考資料等

「特別支援学校学習指導要領」「特別支援学校学習指導要領解説」「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」文部科学省、「特別支援教育の基礎・基本〔新訂版〕共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築」独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 ジェアース教育新社

学生に対する評価

到達目標の達成度を、試験結果80%、授業中の授業中に作成したレポートと発言20%の割合で評価する。

授業科目名： 総合的な探究の時間の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：梅木 仁
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「総合的な探究(学習)の時間」の学校教育における意義を理解し、教員の果たす役割について表現できる。また、授業毎に自分の考えをノートに記録・表出し、必要によって互いの意見を発表し合いながら、自己の指導力をより高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育て、「知識基盤社会」において重要な役割を果たす総合的な探究(学習)の時間についての指導法について、『学習指導要領』に基づき考察する。時に演習形式を用い、意見発表し合うことにより、自己教育力の変容を期するとともに、学校現場での先駆的な実践に触れさせ、理解を深めさせる。</p>			
<p>授業計画（授業時間1回105分）</p> <p>第1回：「総合的な探究(学習)の時間」新設の社会的背景と意義</p> <p>第2回：「総合的な探究(学習)の時間」の課題と急速な体系化</p> <p>第3回：「学習指導要領」(H29改訂)における改訂ポイント(1)</p> <p>第4回：「学習指導要領」(H29改訂)における改訂ポイント(2)</p> <p>第5回：「学習指導要領」(H29改訂)における改訂ポイント(3)</p> <p>第6回：各学校が創る「総合的な探究(学習)の時間」のポイント（3） ～単元計画の作成及び「総合的な探究(学習)の時間」の学習指導</p> <p>第7回：各自作成した年間指導計画及び単元指導計画案の発表・検討〔演習〕</p>			
テキスト:なし			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校『学習指導要領解説／総合的な学習の時間編』（文部科学省 平成29年度改訂）</p> <p>高等学校『学習指導要領解説／総合的な学習の時間編』（文部科学省 平成29年度改訂）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>①講義中に提示される課題追究への姿勢及びグループワークでの協働性・リーダーシップ(4割)</p> <p>②毎回実施の自己評価(1割) ③各テーマに関する課題提出、相互評価・自己評価(2割)</p> <p>④各自作成の「総合的な学習の時間」の年間指導計画及び単元指導計画案(3割)</p>			

授業科目名： 特別活動指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：梅木 仁、 岩本 宏幸 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 「特別活動」の学校教育における意義を理解し、教員の果たす役割について表現できる。また、授業毎に自分の考えをノートに記録・表出し、必要によって互いの意見を発表し合いながら、自己の指導力をより高める。			
授業の概要 教育の目的である「人格の完成」を目指す上で大きな役割を担うのが、「特別活動」である。本講座では、2017年改訂『学習指導要領』に基づき、集団や自己の向上を図るための話し合い活動を通し、自主的・実践的な態度を育むための「特別活動」の指導の在り方について考察する。時に演習形式を用い、意見発表し合うことにより、自己教育力の変容を期するとともに、学校現場での先駆的な実践に触れさせ、理解を深めさせる。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：学校に活力を吹き込む「特別活動」の意義と役割（岩本） 第2回：「特別活動」の目標から見える基本的な性格(特質)（岩本） 第3回：「特別活動」の各活動・学校行事の目標及び内容①（学級活動）（梅木） 第4回：「特別活動」の各活動・学校行事の目標及び内容②（生徒会活動）（梅木） 第5回：「特別活動」の各活動・学校行事の目標及び内容①（学校行事）（梅木） 第6回：「特別活動」指導案及び活動計画案の作成〔演習〕（梅木） 第7回：各自作成した「特別活動」指導案及び活動計画案の発表〔演習〕（梅木）			
テキスト 特になし。その都度講義の要旨レジュメや関係資料、プレゼンで使用したのスライドを配布する。ファイル等を準備し、必要に応じて取り出せるように丁寧に綴じておくこと			
参考書・参考資料等 中学校『学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省 平成29年度改訂） 高等学校『学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省 平成29年度改訂）			
学生に対する評価 ①講義中に提示される課題追究への姿勢及びグループワークでの協働性・リーダーシップ(4割) ②毎回実施の自己評価(1割) ③各テーマに関する課題提出と自己評価・相互評価(2割) ④各自作成の指導案及び活動計画案の作成と発表(3割)			

授業科目名： 教育課程の編成とICT活用を含む教育の方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 千佳夫 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 英語） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメント含む） 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[1] 学習指導要領の性格と位置づけ、教育課程の目的及び編成の基本原理と方法について理解できるようにする。</p> <p>[2] 教育の方法及び技術について理解し、授業案を構成することができるようにする。</p> <p>[3] 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を理解し、必要技能を身につけることができるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>児童生徒に対し授業を行うためには、授業理論と効果的な教育方法を身につけていなければならない。前半では、教育課程の編成とカリキュラムマネジメントなどの理論とともに、主体的・対話的で深い学びをどのように実現させていくか等の教育の方法及び教育の技術についての理解を深める。後半は、個別最適な学びと協働的な学びを実現させる通信教育技術の意義と具体的な活用についての理解と、演習を行っていく。</p>			
<p>授業計画（授業時間1回105分）</p> <p>第1回：公教育と学習指導要領の性格と位置づけについて</p> <p>第2回：教育課程の理解と資質・能力の育成について</p> <p>第3回：カリキュラムマネジメントの理解と作成・評価について</p> <p>第4回：教育方法の基礎的理論と「主体的・対話的で深い学び」について</p> <p>第5回：教育技術と教師の役割について</p> <p>第6回：「協働的な学び」と「主体的な学び」について</p> <p>第7回：学習評価について、教育における情報通信技術の活用と理論（指導事例①）</p> <p>第8回：個が主体となる学びと情報通信技術について</p> <p>第9回：GIGAスクール構想と教科領域の中での活用場面について（情報活用能力の育成について）</p> <p>第10回：ICTを活用して教材開発とプログラミング教育について（指導事例②）</p>			

第11回：教育データ活用した評価と「情報モラル教育」及び「デジタルシティズン教育」について
(指導事例③)

第12回：ICTを活用した特別支援教育(指導事例④)

第13回：校務の情報化とセキュリティの重要性、遠隔、オンライン教育について

テキスト

西野和典、鹿野利春、佐藤万寿美、高橋参吉、高橋朋子、西端律子 著「情報通信技術を活用した教育の理論および方法」、実教出版、2023年、ISBN:978-4-407-35841-4

参考書・参考資料等

学習指導要領(小学校・中学校・高等学校)

樋口直宏 編著「教育の方法と技術」、ミネルヴァ書房、2019年、ISBN:978-4623-085057

学生に対する評価

1講義中に提示される課題追究への姿勢及びグループワークでの協働性やリーダーシップ(3割)

2毎回授業終了時に実施する自己評価(2割) 3試験(5割)

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 渡辺（日高） 伸子 大隅 晃弘 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 生徒指導の今日のあり方を理解することを目標とする。その際、校内連携も意識して生徒指導に関する自分の考えを他者に適切に伝える力を磨く。			
授業の概要 生徒指導について学ぶ。自らについて振り返りながら指導のあり方について考える			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：生徒指導とは・生徒指導に関する法律（担当：渡辺） 第2回：生徒指導と教育課程・生徒指導に関する学校内システム（担当：大隅） 第3回：基本的な生活習慣の形成・地域や家庭との連携（担当：大隅） 第4回：「いじめ」と「不登校」への生徒指導的対応（担当：大隅） 第5回：「暴力行為」と「性の問題」への生徒指導的対応（担当：大隅） 第6回：教育相談への取り組み・予防的開発的介入（担当：渡辺） 第7回：今日的な生徒指導の課題について考える（担当：渡辺）			
テキスト 『生徒指導提要（改訂版）』。その他、必要資料は授業時に配付する。			
参考書・参考資料等 国立教育政策研究所「生徒指導リーフ」などを必要に応じて配布する。統計資料なども活用する。			
学生に対する評価 中間レポート（30%）、最終レポート（70%）			

授業科目名： 教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡辺（日高） 伸子 大隅 晃弘 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 中高生に関わる際に必要な理論を理解したうえで諸技法を身につけ、教育実習や中高生と関わる実際の活動に活かせるようになることを目標とする。			
授業の概要 中学校あるいは高校で教師として働く際に必要な教育相談の知識について学ぶ。教育相談活動を適切に理解できるようになるために理論と事例を学ぶ。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：教育相談の意義と課題（担当：渡辺） 第2回：教育相談に関わる心理学の理論（1）（クライアント中心療法・精神分析療法）（担当：渡辺） 第3回：教育相談に関わる心理学の理論（2）（認知行動療法）（担当：渡辺） 第4回：カウンセリングマインドと傾聴（担当：渡辺） 第5回：子どもの発達課題（児童期・思春期・青年期）（担当：渡辺） 第6回：「不登校」の事例を読む（担当：大隅） 第7回：「いじめ」の事例を読む（担当：大隅） 第8回：「虐待」の事例を読む（担当：大隅） 第9回：「非行」の事例を読む（担当：大隅） 第10回：校内の相談システム（担当：大隅） 第11回：保護者への支援（担当：大隅） 第12回：スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーの仕事（担当：大隅） 第13回：校外の専門機関との連携（医療・教育・福祉）（担当：渡辺）			
テキスト 指定しない。必要資料は授業時に配付する。			
参考書・参考資料等 必要に応じて統計資料などを配布する。			
学生に対する評価 中間レポート（30%）、最終レポート（70%）			

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 渡辺（日高） 伸子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 進路指導とキャリア教育の今日のあり方を理解することを目標とする。その際、校内連携も意識して進路指導に関する自分の考えを他者に適切に伝える力を磨く。			
授業の概要 進路指導とキャリア教育について学ぶ。自らについて振り返りながら、指導のあり方について考える。			
授業計画（授業時間1回105分） 第1回：キャリア教育の意義と理論・キャリア教育の進め方・キャリア教育の方法と技術 第2回：進路指導の組織と運営・家庭や地域との連携 第3回：キャリア発達の諸理論 第4回：進路指導の進め方・キャリアパスポート 第5回：中学校、高校におけるキャリア教育実践 第6回：アセスメントツールの活用 第7回：自らのキャリア発達について振り返る			
テキスト 「中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023年3月）」。その他、必要資料は授業時に配付する。			
参考書・参考資料等 必要に応じて統計資料などを配布する。			
学生に対する評価 中間レポート（30%）、最終発表（70%）			

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)		単位数：2単位	担当教員名：大山慎一、今野誠、白旗希実子、渡辺（日高）伸子、梅木仁、佐藤千佳夫		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	約20人				
教員の連携・協力体制 教科専門担当教員と教職担当教員が連携し、テーマ等に応じて適宜連携して指導を行う。					
授業のテーマ及び到達目標 授業実践への理解を深め、教科に関する指導力を磨くことができる。生徒や同僚等との関係を構築していくための基礎的な力を身に付けることができる。					
授業の概要 教育実習を踏まえて教職に関する知識やスキルおよび教科に関する知識を振り返る。その上で、「履修カルテ（自己評価シート）」を参照しながら、教職の専門性、教科の知識、教材研究・開発・作成、教科指導法、生徒・同僚・保護者等との関わり方などの側面から学びを総括し、知識やスキルのブラッシュアップを図る。					
授業計画 第1回：「履修カルテ（自己評価シート）」に基づくオリエンテーション、中学校及び高等学校における授業参観の視点（大山、今野、梅木） 第2回：中学校及び高等学校における授業参観（1）（大山、今野、梅木） 第3回：中学校及び高等学校における授業参観（2）（大山、今野、梅木） 第4回：教育実習の振り返り（大山、今野、梅木） 第5回：教育実習で捉えた学校現場における課題への対応（大山、今野） 第6回：生徒の特性や状況に応じた対応（今野、渡辺） 第7回：教材研究、地域の文化資源の活用（大山、梅木） 第8回：生徒理解を踏まえた学級経営の在り方（学級経営案の作成）（大山、今野） 第9回：教員のメンタルヘルス（渡辺） 第10回：教育におけるI C T活用（大山・佐藤） 第11回：保護者や地域との良好な関係づくり（大山、今野） 第12回：模擬授業および講評（1）（全教員） 第13回：模擬授業および講評（2）（全教員）					
テキスト 担当者の自主編集による配付資料					
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』、『生徒指導提要』					

学生に対する評価

提出課題（授業参観レポート、学級経営案）、演習におけるグループ活動や議論への参画・貢献、模擬授業への取組み（教材の活用、指導方法、板書、指導案の内容等）に「履修カルテ」による自己評価を加味して総合的に評価。